

「ちばっ子の学び変革」推進事業 検証報告



長南町立長南中学校

1, はじめに

長南中学校の沿革



昭和36年・・・町内唯一の中学校として開校。

令和4年・・・小学校併設型中学校となった。

地域

自然豊かで景観の美しい町。
少子高齢化、過疎化が課題。

生徒

協調性に富み、性格も温和
で**素直**な生徒が多い。

学校教育目標

**郷土を愛し、未来を拓く創造的な知性と体力を身に付けた
心豊かな生徒の育成**

これまでの研究

令和5年度 研究主題「主体的に学び表現する生徒の育成」

～「根拠を明確にして書くこと」の学習を通して～

【成果】

- ・どの教科でも「根拠を明確にして書く活動」を意図的に位置づけることができた。
- ・国語科では、書くことの目的を明確にして言語活動を位置づけ、主体的に表現する授業実践ができた。
- ・書くことに苦手意識がある生徒に、ICTの効果的な活用を図ることができた。

【課題】

- ・情報活用能力を育む必要性が感じられた。
- ・今年度の研究の中に評価についての研究が進められていない。

2, 生徒の実態

(1) R 5 千葉県標準学力検査より (R 5. 3月実施)

国語については、すべての学年が県平均をやや上回り、基礎・基本が定着していることがうかがえる。

また、どの観点も県平均から大きく下回る観点はなかった。

(2) R4 全国学力・学習 状況調査より (R4.4.19 実施)

- ・ 国語の正答率は県・全国と
ほぼ同じ
- ・ 読むこと、書くことの観点
が下回っている
- ・ 短答式や選択式の正答率は
全国平均に比べて高い
- ・ **記述式問題の無回答率**が高
い

グラフについては省略

R 5 全国学力・学習状況調査より（R5.4.18実施）

- ・ 国語の点数は千葉県・全国を**やや上回る**
- ・ 読むこと、書くことの観点は**ほぼ同点**
- ・ **記述式問題の無回答率がR4 に比べ大幅に減少（ほとんどすべての項目で県、全国を上回る）**

R 6 全国学力・学習状況調査より（R6.4.18実施）

- ・ 国語の点数は千葉県・全国を**やや下回る**
- ・ 書くことの観点は全国と同じ程度であった。
- ・ **記述式問題の無回答率は県、全国とほぼ同じ**

(3) R5、R6全国学力・学習状況調査の質問紙より

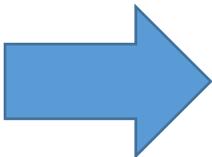
| | |
|--------------|-------------------------|
| 国語の勉強が大切 | 9 1 % (R5) → 8 6 % (R6) |
| 国語の授業の内容が分かる | 9 4 % (R5) → 9 7 % (R6) |
| 国語の勉強が好き | 7 3 % (R5) → 6 9 % (R6) |
| 国語は将来役に立つ | 7 6 % (R5) → 9 4 % (R6) |

- 自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していたか。 6 7 % (R5) → 6 9 % (R6)
- 学んだことを生かしながら、自分の考えを自分の言葉でまとめる活動を行っていたか。 5 5 % (R5) → 6 9 % (R6)

(4) 普段の学習のようすから

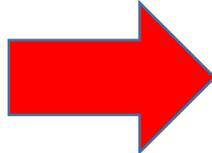
真面目な学習態度で落ち着いて学習に臨んでいる。

文章によって説明したり、**自分の意見を書くことに苦手意識**をもった生徒が多い。感想や作文などは、何をどのように書いてよいのか分からない生徒が見られる。



長南中の生徒の課題

これまでの学習経験において**書くことが少なく、自分の考えを根拠を挙げたり、構成を工夫したりして表現することができていない。**



解決の手立て

書く力を身に付けさせるには、**自分の考え**をもたせ、何を問われ、何を**書くべきか**を生徒自身が理解する必要がある。そのために、各教科において「**条件に合わせて書く**」経験を積ませる。

3, 課題解決に向けた方策

研究主題

主体的に学び表現する生徒の育成

～根拠を明確にして書くことの学習を通して～

仮説

一人一人が自分の考えを明確にするために、言葉による見方・考え方を働かせ、考えを形成する場や学び合う場を設定すれば、主体的に学び表現する生徒が育つだろう。

令和6年度 主な年間計画

4月 全国学力・学習状況調査の実施

本年度の研究の進め方及び「ちばっ子の学び変革推進事業」について共通理解

5月 「主体的に学び表現する生徒の育成」に向けた校内研修

6月 検証授業①（事前調査問題の実施及び授業）

7・8月 全国学力・学習状況調査結果の提供（文科省から）

全教員で調査結果の分析（校内研修）

「根拠を明確にして書くこと」に向けた研修（教科）

9月 検証授業②（事前・事後調査問題の検討、指導案検討）

10月 学力向上交流会発表原稿作成

11月 「ちばっ子の学び変革推進事業」検証報告（学力向上交流会）

令和7年

1月 本年度の研究のまとめ、研究状況報告書作成

研究のポイント

- (1) 学習課題の明確化・・・振り返りシート、学習課題の把握
- (2) 一人一人の考えを明確化・・・少人数指導、ICTの活用
- (3) 学びの過程にフィードバックを取り入れる。生徒と評価基準を共有し、適切に評価をすることで、学びを調整する力を育む。**
- (4) ルーブリック評価を取り入れ、基本的な知識を生かし、より発展的な学びをする力を育む。**



主体的に学び表現する生徒が育成できる。

4, 実践

(1) 教職員の意識改革

① 全体研修の実施 (R 6. 5. 14)

指導主事による「主体的に学び表現する生徒の育成について」の講話

「ちばっ子の学び変革」推進事業

主体的に学び表現する生徒の育成について



令和6年5月14日(火)
東上総教育事務所指導室山武分室

昨年度の取組

全国学力・学習状況調査国語の問題を全職員で解いて、問題のメッセージを読み取る。

情報活用能力の必要性を感じ、各教科等でどんな実践ができるかを話し合う。

「根拠を明確にして書く」活動を各教科で取り入れ、生徒の状況を共有しながら実践を重ねる。

ICT機器の活用で考えを共有
→学びが明確化

振り返りシートの活用で学んだことがより具体的に



研究主題

主体的に学び表現する生徒の育成
～「根拠を明確にして書くこと」の学習を通して～

【仮説】

一人一人が自分の考えを明確にするために、言葉による見方・考え方を働かせ、考えを形成する場や互いに学び合う場、**学びの過程にフィードバックの過程を取り入れる場**を設定すれば、主体的に学び表現する生徒が育つだろう。

情報活用能力を育む授業づくり



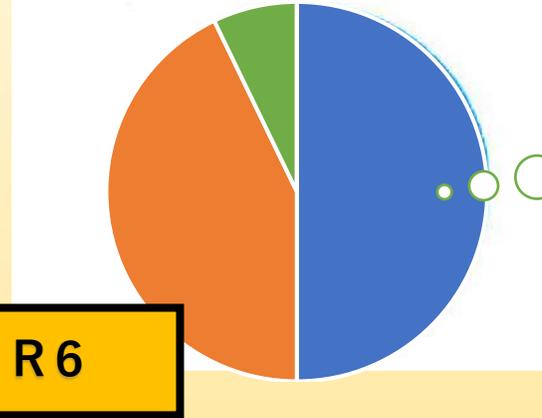
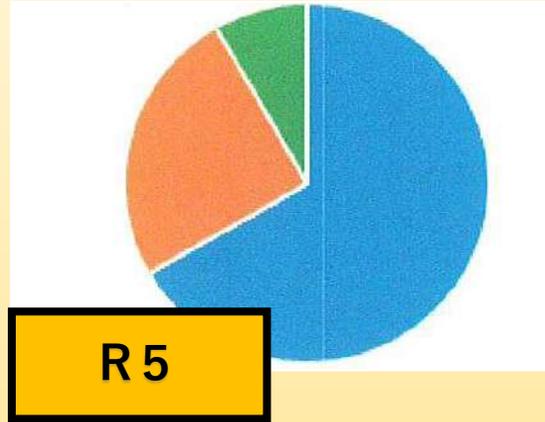
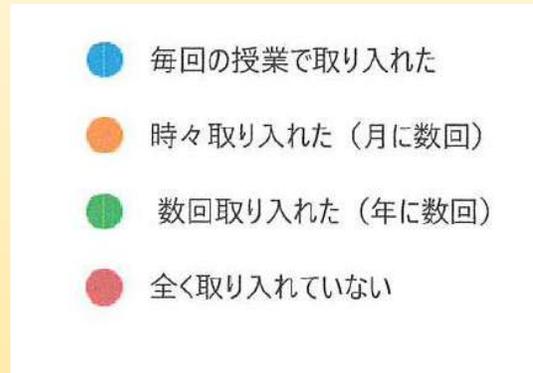
情報活用能力を育む授業づくりガイドブック(中学校編)より



②教職員アンケートの実施（R5とR6の比較）

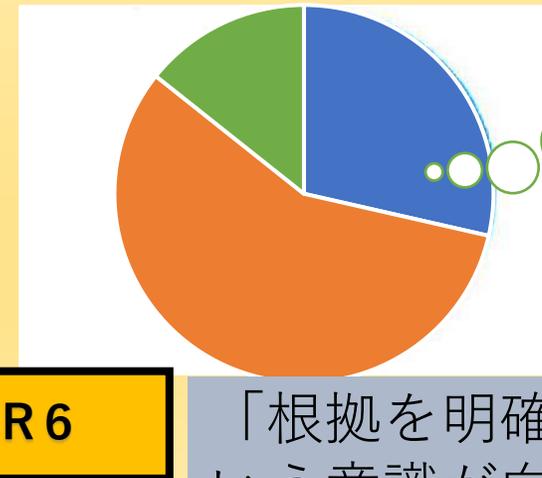
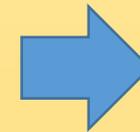
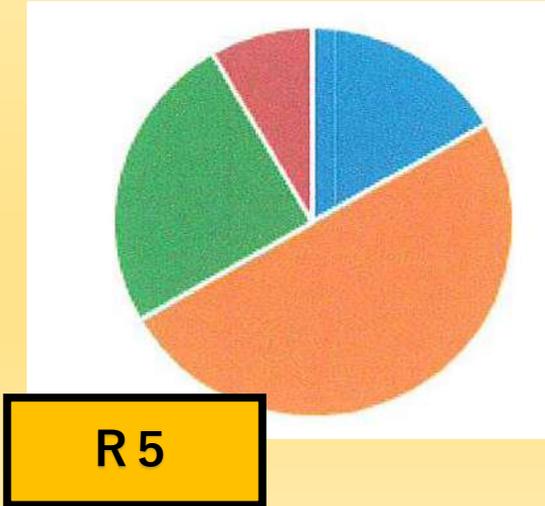
これまでの教科指導についての振り返り

Q. 自身の教科において、これまでに「自分の意見や考えを書く活動」をしていましたか。



ほとんどの教員が「書く活動」をさせている。

Q. 自身の教科でこれまで「根拠を明確にして書く活動」を取り入れていましたか。



すべての教科で「根拠を明確にして書く活動」をさせている。

「根拠を明確にして書く」という意識が向上した！

教員アンケートの実施（R5.5.26）

これまでの教科指導についての振り返り

Q. 自身の教科において、「根拠を明確にして書く活動」について、今後どのような活動ができそうですか。

A. まずは、口頭で根拠をもとに説明する活動を行う。その後は書く活動に。製作時にポイントとなる点を書き出させる。レポート作成を積極的に取り入れていく。



③ R 5、R 6 全国学力・学習状況調査の分析

国語の問題を全職員で解き、各教科で取り入れるべき活動を考えた。



英語科でも自分の考え
を英語で表現する活動を
増やしていきたいな。

校内研修の様子



保健だよりも活用できそうですね。

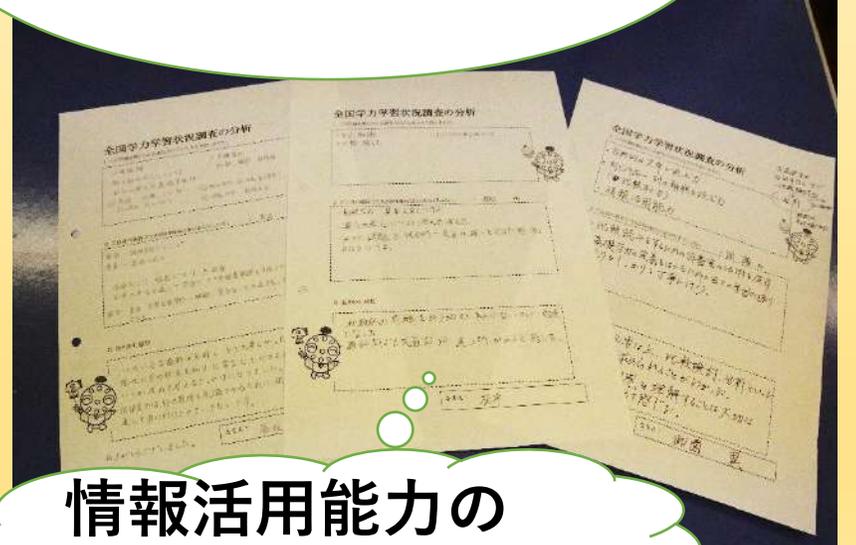


国語科だけでなく、全校体制で実践することが大切ですね。

数学科では、どのような学習ができますかね・・・。



理科だと実験結果を基に、根拠を明確に考察を書けますね。



情報活用能力の必要性

(2) 授業実践

①少人数指導の実施による、個の学びに対する支援。
学習内容の明確化をし、きめ細やかな支援体制を確立した。



数学科

自分の考えを
根拠をもとにし
て伝えよう。

自分に適した
方法を選んで、
学習を進めよう。



国語科



技術科

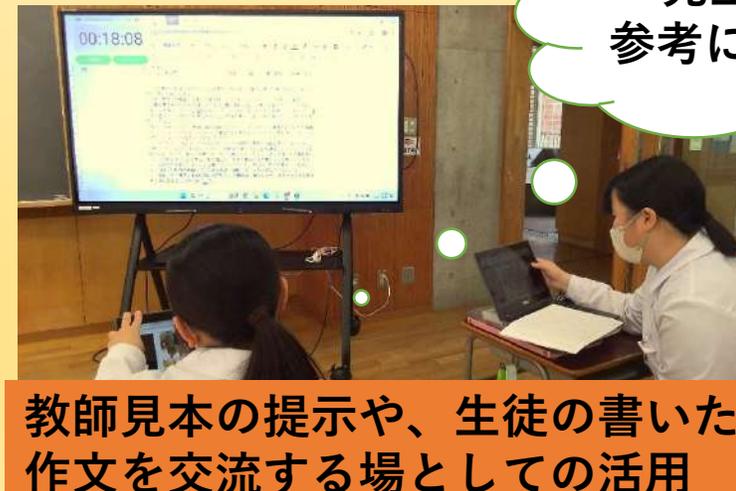
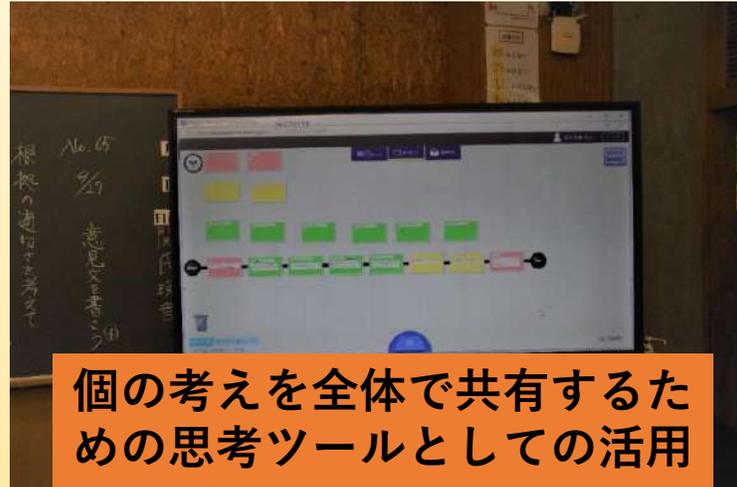
どの教科でも、
自分の考えを意識
した学びをしています。

どのようにした
らきれいに加工で
きるかな？



②思考を広げるためのICTの活用

効果的にICT機器を活用することで、話し合い活動を充実させ、自分の考えを明確化する学びを進めることができた。



先生の見本を参考に見よう

③振り返りシートの活用により、思考の広がりや、次時の学習課題を明確にする習慣づけを行った。

| No. | No. 63 | No. 62 | No. 61 | No. 60 | No. 59 | No. 58 | No. 57 | No. |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------------------------|
| 1 | 9/13 | 9/19 | 9/27 | 9/26 | 9/25 | 9/22 | 9/20 | 月日 |
| | 意見文書③ | 構文型 | 根拠の吟味 | 意見文書② | 益±産④ | 意見文書① | 益±産③ | 教材名 学習内容 |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 持ち物 |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 宿題 |
| | た成ッ | こくは | レ絵と | アエシ | ヨ読ん | こがけ | るくと | わかつたこと、 接続詞を用いて、 二文で表現する |
| | のト今 | は今日 | 味根今 | ア知た | 合てめ | となし | のめ今 | |
| | 意見大 | 反文三 | はとの | おむ | 日良た | がくた | 日かいた | |
| | をい切 | のフ | を付 | しころ | アけた | ま整改 | 皮家益 | |
| | ア観大 | 意見の | 文話良 | 根うか | い意見 | たどこ | た改た | |
| | ポイント | 意見の | 型意の | レと | り | か | た | |
| | ア見か | つあり | 構て分 | や吟 | た観 | んま | と登積 | |
| | トフ | いり | 成い | 根味 | でと | と直は | 思場 | |
| | るに | たて | たの | つ | 対 | ら | た | |
| | こと | も書 | つた | の | つ | 対 | ら | |
| | かめ | い | て | こ | た | ま | ま | |
| | でま | て | 根 | か | に | ッ | ッ | |
| | て反 | ま | た | ら | に | ッ | ッ | |
| | 良対 | と | け | の | 自 | 知 | し | |
| | が | め | 文 | 知 | し | 見 | 見 | |
| | 賛 | る | 章 | 見 | 見 | 見 | 見 | |
| | 高① | 高② | 高③ | 高④ | 高⑤ | 高⑥ | 高⑦ | 自己評価 |

意見と根拠のつながりや根拠の質などに注目して吟味すればよいと分かった。

国語科（2学年）

| | | | | |
|---|--------------------|---|---|---|
| 6月20日(木) | 積極的に練習に取り組めたか | A | B | C |
| | 安全に注意して取り組めたか | A | B | C |
| | 仲間に助言や援助ができたか | A | B | C |
| 練習した技 | ロケット・前方倒立回転び・解法 3回 | | | |
| 練習内容・ポイント・意識した点など | 練習を終えての成果・反省 | | | |
| 9・日頃の練習 | | | | |
| 今日は前方倒立を新しい練習をしたが、回転が速く、着地が良かった。だが、その力が十分に発揮できていないので、もう少し練習したい。 | | | | |

| | | | | |
|--|---------------|---|---|---|
| 6月21日(金) | 積極的に練習に取り組めたか | A | B | C |
| | 安全に注意して取り組めたか | A | B | C |
| | 仲間に助言や援助ができたか | A | B | C |
| 練習した技 | ロケット・しりぞき | | | |
| 練習内容・ポイント・意識した点など | 練習を終えての成果・反省 | | | |
| しりぞきの練習 | | | | |
| できる技をよりきれいにできるように練習した。着地や止まる場所をより完璧に近づける事ができた。 | | | | |

できる技をよりきれいにするために練習した。着地や止まる場所をより完璧に近づける事ができた。

| | | | | |
|-------------------|---------------|---|---|---|
| 6月24日(火) | 積極的に練習に取り組めたか | A | B | C |
| 練習した技 | | | | |
| 練習内容・ポイント・意識した点など | | | | |

～マット運動の授業を振り返って～

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| 久しぶりのマット運動だったけれど、前年度でできた技をいくつか成功させることができた。今年度は新しい技に積極的に挑戦したいので、自信を持って練習したい。 | | | | |
|---|--|--|--|--|

体育科（3学年）

④ フィードバック過程の実践

| 学習内容 | A 評価 | B 評価 | C 評価 |
|------------------------------------|--|--|--|
| (1) 「批評文」とはどのようなものかを知る。 ・題材を選ぶ。 | ・「批評文」について理解できた。 ・心に留まった題材を、複数集めることができた。 | ・「批評文」について理解できた。 ・心に留まった題材を、見つけることができた。 | ・「批評文」について理解できなかった。 ・どの題材がいいか、選ぶことができない。 |
| (2) 観点を決めて分析する。 | ・複数の題材について、自分で観点を見つけ、分析することができた。 | ・自分で観点を見つけ、分析することができた。 | ・自分で観点を立てられず、見本として提示した観点を活用していた。 |
| (3) 構成を考え、批評文を書く。 | ・「批評するときの言葉」を複数活用しながら、論理だった文章が書ける。 ・複数の題材について、四百字程度の批評文を書くことができた。 | ・「批評するときの言葉」を活用し、主張とそれを支えるための分析をもとに文章が書けている。 ・四百字程度の批評文を書くことができた。 | ・主張は書けたが、分析が不十分で、論理の展開に無理がある。 ・四百字程度の文を書くことができなかった。 |
| (4) 推敲して仕上げ、批評文を提出する。 | ・資料を適切に活用し、批評の効果を高めることができた。 ・説得力のある批評文となっている。 | ・資料を適切に活用し、批評の効果を高めることができた。 ・説得力のある批評文となっている。 | ・資料を適切に活用し、批評の効果を高めることができなかった。 ・説得力のある批評文となっていない。 |

※第1回 評価

※第2回 評価

同じ単元の中で、
第一次評価をし、
添削をして返却し、
その後、第二次評価
を行った。

【ループリットク】

① 「批評文」とはどのようなものかを知る。
・朝読書の時間を活用し、朝読書の対象（広報）「ちよやうなん」を参考に、自分がどう感じたかを踏まえ、観点を決めて問いを出す。

② 批評する対象（広報）「ちよやうなん」を参考に、自分がどう感じたかを踏まえ、観点を決めて問いを出す。

③ 分析したことを基に、構成を考え、批評文を書く。
・意見と根拠の関係など説得力のある論理の展開を考える。

④ 構成表を基に内容を推敲し、四百字程度の批評文を仕上げる。

【学習計画（4時間）】

学習の目標

② 表現のしかたを考えた

① 広報「ちよやうなん」を基に、自分がどう感じたかを踏まえ、観点を決めて問いを出す。

多角的に

説得力のある文章を書く。

評価する。

説得力のある文章を書く。

領域

思考判断

2回評価してもらえ
から意欲が増しました。

ゴールがはっきりして
いるので授業が理解しや
すいです。

A 評価を目指し、
何が足りていないの
か振り返るよい機会
になっています。

理科のレポート
学習でも同じよう
に2回評価してもら
いました。



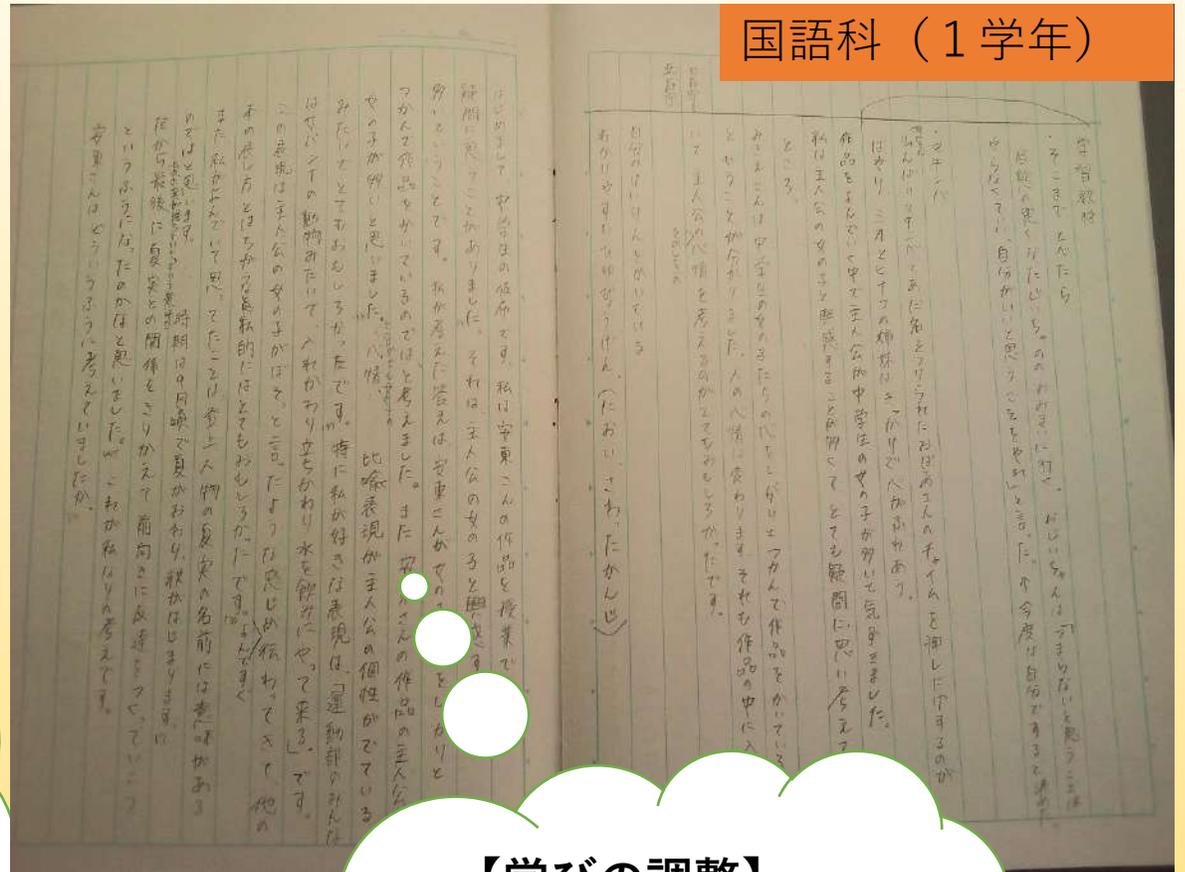
⑤ルーブリック評価の実践

| 学習内容 | A評価 | B評価 | C評価 |
|------------------------------------|--|--|---|
| (1) 「批評文」とはどのようなものかを知る。 ・題材を選ぶ。 | ・「批評文」について理解できた。 ・心に留まった題材を、複数集めることができた。 | ・「批評文」について理解できた。 ・心に留まった題材を、見つけることができた。 | ・「批評文」について理解できなかった。 ・どの題材がいいか、選ぶことができない。 |
| (2) 観点を決めて分析する。 | ・複数の題材について、自分で観点をを見つけ、分析することができた。 | ・自分で観点をを見つけ、分析することができた。 | ・自分で観点を立てられず、見本として提示した観点を活用していた。 |
| (3) 構成を考え、批評文を書く。 ※第1回 評価 | ・「批評するときの言葉」を複数活用しながら、論理だった文章が書けた。 ・複数の題材について、四百字の批評などができた。 | ・「批評するときの言葉」を活用しながら、論理だった文章が書けた。 | ・主張は書けたが、分析ができていない文章が多かった。 |
| (4) 推敲して仕上げる。 ※第2回 評価 | ・資料を用い、批評を効果的とした説得力の批評文となっている。 | ・資料を用い、批評を効果的とした説得力の批評文となっている。 | ・資料を用い、批評を効果的とした説得力の批評文となっている。 |

【ルーブリック】

学習目標の達成度を判断するため、【評価の観点(規準)】と、【評価基準】を数段階に分けて表で示した。

国語科 (1 学年)



【学びの調整】
学習の見通しをもち、自主的に作文の下書きを進めていた生徒もいました。

国語科 (3 学年)

R6年度 国語科検証授業

※国語科で取り組んだ共通事項

- ①「個別最適な学び」に向けた実践
- ②学びの過程に「フィードバック」を取り入れる
- ③「ルーブリック評価」を取り入れる

1年生～「星の花が降るころに」 作者へのファンレターを書こう～

ファンレターを書こう①～構想を考える～

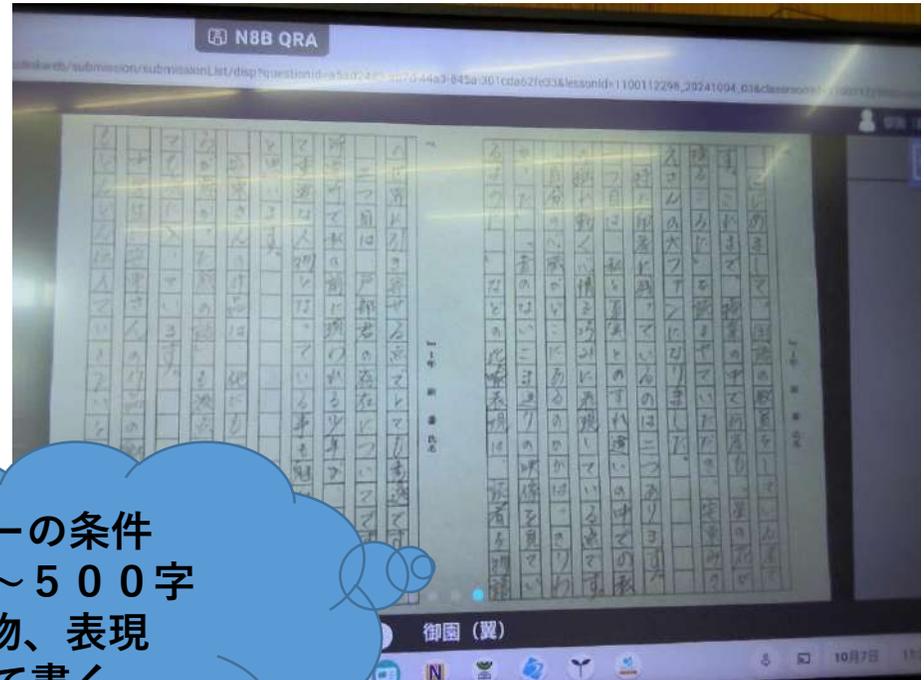
- ・ 比喩表現や描写の効果について考える
- ・ 「オクリンク」で心情曲線の交流

ファンレターを書こう②～構想メモの作成～

- ・ 個別最適な学び（手書き、タブレット選択）
- ・ 条件と評価方法の確認
- ・ 教師モデルの提示



比喩表現や心情曲線について考え、ファンレターを書く材料を集めよう。



ファンレターの条件

- ・ 400字～500字
- ・ 好きな人物、表現に着目して書く
- ・ 根拠を明確にする

1年生 ～「星の花が降るころに」 作者へのファンレターを書こう～

ファンレターを書こう③～構想を基に書く～

- ・個別最適な学び（a.手書き、タブレット選択
b.アドバイスタイム c.個に応じた課題の設定）

ファンレターを書こう④～仕上げる～

- ・個別に添削、評価(第一次)→ 班ごとに交流
・各自で推敲 → 完成形を再評価(第二次)

ファンレターが完成したから、別の課題に挑戦しようかな。

前回B評価だったから今回は絶対にA評価をとるぞ！

タブレットは文字が早く打てるけど、手書きの方が、相手に気持ちが伝わりそうだなあ。

自分ではなかなか気づかなかったけど、班の人の視点は勉強になるなあ。



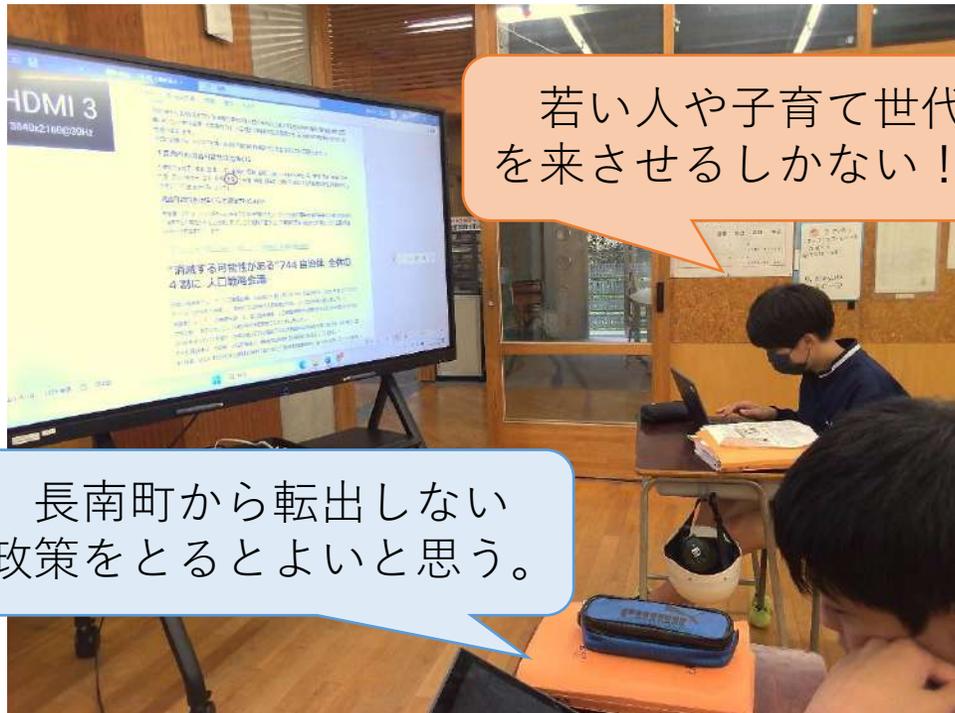
2年生

～根拠の適切さを考えて意見文を書こう～

意見文を書こう①

～テーマを捉える～

- ・ニュース・新聞記事の紹介



若い人や子育て世代を来させるしかない!

長南町から転出しない政策をとるとよいと思う。

意見文を書こう②～意見の根拠を吟味する～

- ・教師モデルの提示
- ・『ループリック』の提示

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--------------------|----------------------|---------------------|---------------------|----------------------|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|---------------|--------|----------------|---------------|
| 参考 | 世代を呼び込むことが必要なのである。 | を強化して、それを大々的に広告し、子育て | 長南町が消滅しないためには子育て支援策 | 体」を脱却できるのではないかと考えた。 | ば、子育て世代が転入し、「消滅可能性自治 | ームを立ち上げるなどの支援を導入してい | や子育ての悩みをポランテアが対応する | を広く伝え、さらに出産時や入学時の祝 | 同じように、長南町でも今ある育支援策 | らに「自立可能性自治体」にま | 年四月「消滅可能性自治体」か | らむら」は子育て支援策を強化 | がある指摘された宮城県の大 | NHKニュースで、十年前に | あると思う。 | るためには、子育て支援策を強 | 長南町が二〇五〇年に消滅し |
|----|--------------------|----------------------|---------------------|---------------------|----------------------|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|----------------|----------------|----------------|---------------|---------------|--------|----------------|---------------|

さらに「根拠」をもう1つ以上、「反論」と「反論に対する意見」も書いてみよう。

2年生

～根拠の適切さを考えて意見文を書こう～

意見文を書こう③

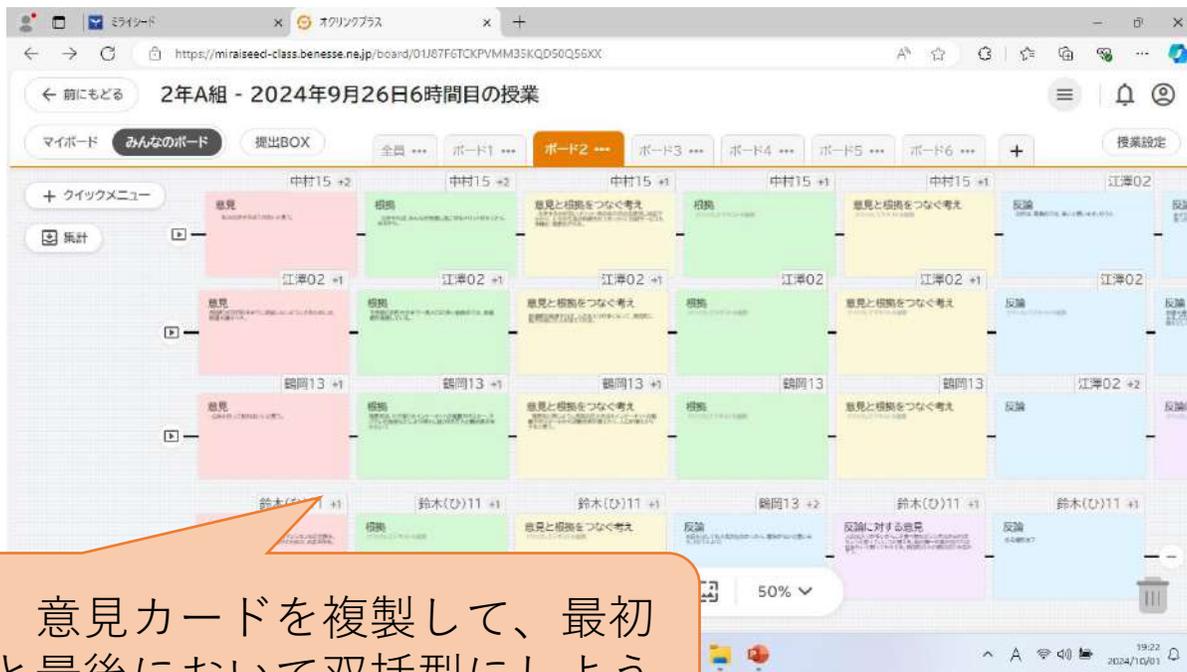
～構成メモを作る～

- ・オクリンクプラスの活用

意見文を書こう④

～構成メモを読んで反論を考える～

- ・グループワーク



意見カードを複製して、最初と最後において双括型にしよう。

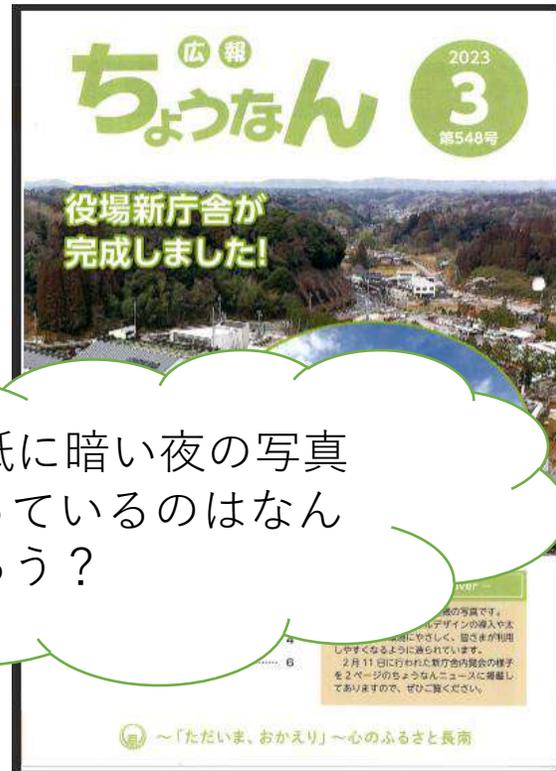
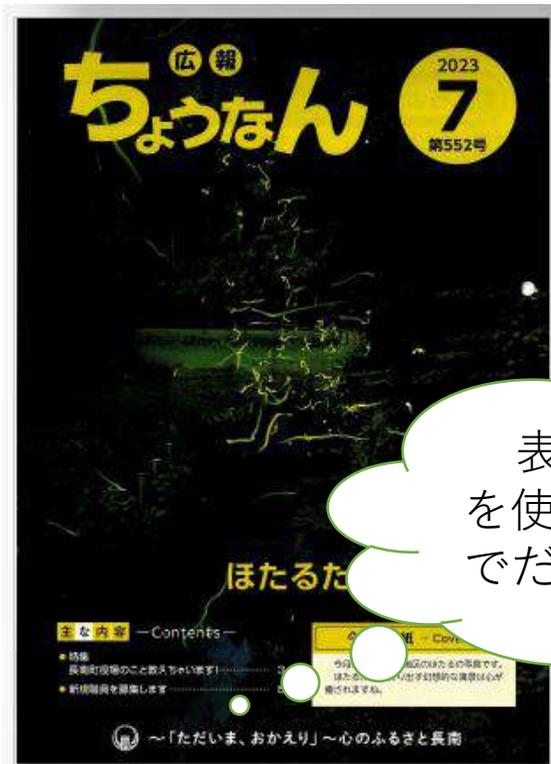


反論を聞いて自分が気づいていなかった問題点に気づいた。

3年生 ～多角的に分析して書こう～

批評文を書こう①～広報からテーマを決める～

- ・町の広報（過去3年間分）を活用
- ・「クラスルーム」での広報の共有



批評文を書こう②～構想を立てる～

- ・『ルーズブリック』の提示
- ・教師モデルの提示

| 学習内容 ^① | A評価 ^② | B評価 ^③ | C評価 ^④ |
|------------------------------------|---|---|--|
| (1) 「批評文」とはどのようなものかを知る。 ・題材を選ぶ。 | 「批評文」について理解できた。 ・心に留まった題材を、複数集めることができた。 | 「批評文」について理解できた。 ・心に留まった題材を見つめることができた。 | 「批評文」について理解できなかった。 ・どの題材がいいか、選ぶことができない。 |
| (2) 観点を決めて分析する。 | 複数の題材について、自分で観点を見つけ、分析することができた。 | 自分で観点を見つけ、分析することができた。 | 自分で観点を立てられず、見本として提示した観点を活用していた。 |
| (3) 構成を考え、批評文を書く。 ※第1回 評価 | 「批評するときの言葉」を複数活用しながら、論理だった文章が書ける。 ・複数の題材について、四百字程度の批評文を書くことができた。 | 「批評するときの言葉」を活用し、主張とそれを支えるための分析をもとに文章が書けている。 ・四百字程度の批評文を書くことができた。 | 主張は書けず、分析が論理的でない。 |
| (4) 推敲して仕上げる。 ※第2回 評価 | 資料を適切に引用し、批評の言葉を効果的に活用した説得力のある批評文となっている。 | 資料を引用し、論理の展開を意識して、論理的な批評文となっている。 | 資料を引用し、論理の展開を意識して、論理的な批評文を書くことができなかった。 |

第 541号
(2022年8月) 3年 組 番 氏 名 高 中 宗 美
この広報がいちばん伝えたいことは何か。それは、「待ちに待った夏の到来と、子どもたちの元気な姿」である。
「夏の学校（保育園）行事」と言えば「プール」というイメージがある。青空、プールに響き渡る子どもたちのはしゃぐ声は、夏の訪れを感じさせる光景である。この号は、「老」をテーマとしており、夏は「老」をテーマとして映るプール。涼やかな感じがする。
どうしたらA評価になるのかなあ。
子どもの顔が映っているから、A評価になっているから、見たい。やはり、町の広報というからには、見知らぬ町民の顔が多く掲載することが大切なのではなか。 「色彩」や「写真」を効果的に活用したこの表紙は、真らしさや、子どもたちの元気を十分に伝えることができている。

3年生 ～多角的に分析して書こう～

批評文を書こう③～批評文を書く～

- ・個別最適な学び（手書き、タブレット選択）



私はタブレット入力の方が書きやすいな。

批評文を書こう④～推敲する～

- ・評価(第一次)→各自で推敲
- ・完成形を再評価(第二次)

この広報が一番伝えたいこと「
れたこと」である。
長南町の行事といえば「
渡る人々の声は、
り、題字もキャッ
である。この表紙を見
また、表紙いっば
まっている人の表情が
じられる表紙だと思う。
「フェスティバル」とい
う人もいるかもしれない。
んだかわかりず
と感しているだろう。そのため、活動的な写真よりも落ち着いた

タブレットを活用した
添削の方が効率よく添削
ができました。
(担当教員より)

《タブレット添削の利点》

1. 手元にデータが残り、生徒の変容がとらえやすい。
2. 担当教員はいつでも評価ができる。
3. 評価の根拠をコメントで入力できる。
4. 生徒はいつでも見直し、推敲することができる。

A screenshot of a digital evaluation interface. On the left, there's a chat window with messages from '(長南中)'. One message asks '冬にしか、声が聞こえないのか?' and another says '町民の温かさ→「緑」という朗読性について'. On the right, there's a '成績' (Grade) section showing '40/100'. Below that, there's a '限定公開のコメント' (Limited Public Comment) section with a comment from '(長南中)' dated '9月30日 13:42' that says '「一番伝えたいこと」と、それを裏付ける根拠の関係性がふさわしくない。第一次評価は、限りなく「C」に近い「B」。'. At the bottom right, there's a button that says '限定公開コメントを追...'.

5, 成果と課題

【成果】

- どの教科でも「根拠を明確にして書くこと」を意図的に位置づけ、全職員で共通理解し、課題を明らかにすることができた。
- 国語科では、書くことの目的を明確にして言語活動を位置づけ、主体的に表現する授業実践ができた。
- ICTの効果的な活用についても、多くの実践をする中で、指導の幅を広げることができた。
- 学びの過程でフィードバック評価を取り入れたことで、よりよい評価を得ようと自主的に周囲と意見交換する姿が見られた。
- ルーブリック評価を取り入れたことにより、生徒たちから「より上の評価を目指したい」という肯定的な意見や、学びの調整を図る生徒が多く見られた。

【課題】

- すべての教科で「根拠を明確にして表現する」学習を位置づけることを目指したが、教科の特性上、実践が難しい教科もあった。
- フィードバック過程を取り入れたが、限られた教科のみの実践となってしまう。今後は多くの教科で取り入れる方法を検討したい。
- 教師モデルを提示したが、参考にして書いた生徒が多かった一方で、見本に引っ張られ、オリジナルの作品が書けない生徒がいたので、モデルの在り方の検討が必要である。



ご静聴ありがとうございました。

